

$$\alpha + \beta = \frac{2}{(\sqrt{3}-1)^2+1} = \frac{2}{5-2\sqrt{3}} = \frac{2(5+2\sqrt{3})}{(5-2\sqrt{3})(5+2\sqrt{3})} = \frac{10+4\sqrt{3}}{13}$$

1 (1) $6^3=216$ (通り)

(2) $a < b < c$ となるのは ${}_6C_3=20$ (通り) で、その確率は $\frac{20}{216} = \frac{5}{54}$

(3) $a+b+c$ が奇数となるのは、 a, b, c がすべて奇数か、1つが奇数、2つが偶数の場合である。

ゆえに、その確率は $\frac{3^3+{}_3C_1 \cdot 3^3}{6^3} = \frac{27+81}{216} = \frac{1}{2}$

また、 $a+b+c$ が偶数となるのは、奇数となる場合の余事象であるから、その確率は

$$1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

(4) $a+b+c=6$ となる a, b, c の組は $(1, 1, 4), (1, 2, 3), (2, 2, 2)$

ゆえに、その確率は $\frac{3+{}_3P_3+1}{6^3} = \frac{3+6+1}{216} = \frac{5}{108}$

また、 $a+b+c=5$ となる a, b, c の組は $(1, 1, 3), (1, 2, 2)$

$a+b+c=4$ となる a, b, c の組は $(1, 1, 2)$

$a+b+c=3$ となる a, b, c の組は $(1, 1, 1)$

よって、 $a+b+c \leq 6$ となる確率は $\frac{10}{216} + \frac{3+3}{216} + \frac{3}{216} + \frac{1}{216} = \frac{20}{216} = \frac{5}{54}$

(5) $\int_0^1 (ax^2+bx+c)dx = \left[\frac{a}{3}x^3 + \frac{b}{2}x^2 + cx \right]_0^1 = \frac{a}{3} + \frac{b}{2} + c$

ゆえに $\frac{a}{3} + \frac{b}{2} + c = 6$ から $2a+3b+6c=36$ …… ①

① から $2a=3(12-b-2c)$ よって、 a は 3 の倍数。

また、① から $3b=2(18-a-3c)$ よって、 b は偶数。

したがって、① を満たす a, b, c を求めると

$$(a, b, c) = (6, 6, 1), (6, 4, 2), (6, 2, 3), (3, 6, 2), (3, 4, 3), (3, 2, 4)$$

ゆえに、求める確率は $\frac{6}{216} = \frac{1}{36}$

2 (1) $s(a, n) = \frac{n}{2} [2a + (n-1) \cdot 1] = \frac{n(2a+n-1)}{2}$

(2) $s(-8, n) = \frac{n(-16+n-1)}{2} = 100$ から $(n-25)(n+8)=0$ $n > 0$ から $n=25$

$s(a, 25) = \frac{25(2a+25-1)}{2} = 1000$ から $25(2a+24)=2000$ よって $a=28$

(3) $s(a, n) = \frac{n(2a+n-1)}{2} = 10$ から $n(2a+n-1)=20$

n が奇数のとき $2a+n-1$ は偶数、 n が偶数のとき $2a+n-1$ は奇数。

$20=2^2 \cdot 5$ であるから、条件に適するものは

$$(n, 2a+n-1) = (1, 2^2 \cdot 5), (2^2, 5), (5, 2^2), (2^2 \cdot 5, 1) \text{ の } 4 \text{ 組}$$

(4) $s(a, n) = 100$ から $n(2a+n-1) = 200$

$$2a = \frac{200}{n} - n + 1 > 0 \text{ から } n^2 - n - 200 < 0$$

よって $0 < n < \frac{1+\sqrt{801}}{2} = 14.6$ …… また $200 = 2^3 \cdot 5^2$

ゆえに、題意に適するものは $(n, 2a+n-1) = (1, 2^3 \cdot 5^2), (5, 2^3 \cdot 5), (2^3, 5^2)$ の 3 組

(5) $s(a, n) = 1000$ から $n(2a+n-1) = 2000$ また $2000 = 2^4 \cdot 5^3$

ゆえに、条件に適するものは

$$(n, 2a+n-1) = (1, 2^4 \cdot 5^3), (5, 2^4 \cdot 5^2), (2^4, 5^3), (5^2, 2^4 \cdot 5), (2^4 \cdot 5, 5^2), (5^3, 2^4), (2^4 \cdot 5^2, 5), (2^4 \cdot 5^3, 1) \text{ の } 8 \text{ 組}$$

3 (1) $x^2 + y^2 - 2x + \frac{16}{25} = 0$ …… ① とする。

$t = \frac{y}{x}$ から $y = tx$

これを①に代入すると $x^2 + (tx)^2 - 2x + \frac{16}{25} = 0$

整理して $(t^2+1)x^2 - 2x + \frac{16}{25} = 0$ …… ②

x は実数であるから、②の判別式を D とすると

$$\frac{D}{4} = (-1)^2 - (t^2+1) \cdot \frac{16}{25} \geq 0 \text{ よって } t^2 \leq \frac{9}{16}$$

したがって $-\frac{3}{4} \leq t \leq \frac{3}{4}$ …… ③

(2) $1+t > 0$ であるから、相加平均・相乗平均の関係より

$$1+t + \frac{3}{1+t} \geq 2\sqrt{(1+t) \cdot \frac{3}{1+t}} = 2\sqrt{3}$$

等号が成り立つのは、 $1+t = \frac{3}{1+t}$ のときである。

これを③の範囲で解くと $t = \sqrt{3} - 1$

(3) $z = \frac{x^2+xy}{4x^2+2xy+y^2} = \frac{x^2+xtx}{4x^2+2x \cdot tx+(tx)^2} = \frac{(1+t)x^2}{(4+2t+t^2)x^2} = \frac{1+t}{4+2t+t^2}$

更に変形すると $z = \frac{1}{\frac{4+2t+t^2}{1+t}} = \frac{1}{1+t+\frac{3}{1+t}}$

$1+t+\frac{3}{1+t}$ は、(2)より $t = \sqrt{3} - 1$ のとき最小値 $2\sqrt{3}$ をとるから、 z は

$t = \sqrt{3} - 1$ のとき最大値 $\frac{1}{2\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{3}}{6}$ をとる。

α, β は $t = \sqrt{3} - 1$ のときの②の解であるから、解と係数の関係により

1 a, b に対する α と β の値は次の表ようになる。

α の値

$a \setminus b$	1	2	3	4	5	6
1	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	1	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$
2	1	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$
3	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	-1
4	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	-1	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$
5	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	-1	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	$-\frac{1}{2}$
6	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	-1	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	$-\frac{1}{2}$	0

β の値

$a \setminus b$	1	2	3	4	5	6
1	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	-1	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	$-\frac{1}{2}$
2	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	-1	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$
3	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$	-1
4	1	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$
5	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	1	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	0	$-\frac{1}{2}$
6	$\frac{1}{2}$	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	1	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{1}{2}$	0

- (1) 表から, $\alpha > 0$ となる (a, b) の組は 10 通り
 $\alpha > 0$ かつ $\beta > 0$ となる (a, b) の組は 4 通り
 (2) 表から, α が有理数となる (a, b) の組は 24 通り
 β が有理数となる (a, b) の組は 24 通り
 α, β がともに有理数となる (a, b) の組は 20 通り
 (3) 解と係数の関係から $\alpha + \beta = -p, \alpha\beta = q$
 よって $p = -(\alpha + \beta), q = \alpha\beta$
 p, q がともに有理数となるのは, 次の [1] ~ [3] のいずれかの場合であり, これらは互いに排反である。
 [1] α, β がともに有理数となる。
 [2] $\alpha = \frac{\sqrt{3}}{2}, \beta = -\frac{\sqrt{3}}{2}$ となる。 [3] $\alpha = -\frac{\sqrt{3}}{2}, \beta = \frac{\sqrt{3}}{2}$ となる。
 [1] を満たす (a, b) の組は, (2) から 20 通り
 [2], [3] を満たす (a, b) の組は, 表から [2] 1 通り [3] 3 通り
 したがって, p, q がともに有理数となる (a, b) の組は
 $20 + 1 + 3 = 24$ (通り)

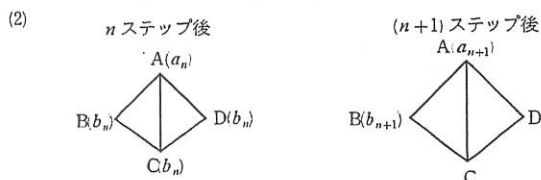
2 (1) $a_1 = \frac{2}{5}, b_1 = \frac{1}{5}$ 2 ステップ後 A にあるのは 2 回とも A にとどまるか, 1 回目他

の頂点に移り, 2 回目 A に戻るかであるから $a_2 = \left(\frac{2}{5}\right)^2 + \left(1 - \frac{2}{5}\right) \times \frac{1}{5} = \frac{7}{25}$

2 ステップ後に B にあるのは, A → A → B または A → B → B
 または A → C or D → B と移る場合であるから

$$b_2 = \frac{2}{5} \times \frac{1}{5} + \frac{1}{5} \times \frac{2}{5} + \left(\frac{1}{5}\right)^2 \times 2 = \frac{6}{25}$$

別解 $b_2 = \frac{1}{3}(1 - a_2) = \frac{1}{3}\left(1 - \frac{7}{25}\right) = \frac{6}{25}$



図形の対称性から n ステップ後に P が C, D にある確率も共に b_n であるから

$$a_{n+1} = \frac{2}{5}a_n + \frac{3}{5}b_n \dots \textcircled{1}, b_{n+1} = \frac{1}{5}a_n + \frac{4}{5}b_n \dots \textcircled{2}$$

(3) ① から $b_n = \frac{5}{3}a_{n+1} - \frac{2}{3}a_n$

よって ② から $\frac{5}{3}a_{n+2} - \frac{2}{3}a_{n+1} = \frac{1}{5}a_n + \frac{4}{5}\left(\frac{5}{3}a_{n+1} - \frac{2}{3}a_n\right)$

ゆえに $a_{n+2} = \frac{6}{5}a_{n+1} - \frac{1}{5}a_n$

$a_{n+2} - a_{n+1} = \frac{1}{5}(a_{n+1} - a_n), a_1 = \frac{2}{5}, a_0 = 1$ から

$$a_{n+1} - a_n = \frac{1}{5^n}(a_1 - a_0) = \frac{1}{5^n}\left(\frac{2}{5} - 1\right) = -\frac{3}{5^{n+1}} \dots \textcircled{3}$$

一方 $a_{n+2} - \frac{1}{5}a_{n+1} = a_{n+1} - \frac{1}{5}a_n$

$$a_1 = \frac{2}{5}, a_0 = 1 \text{ から } a_{n+1} - \frac{1}{5}a_n = a_1 - \frac{1}{5}a_0 = \frac{2}{5} - \frac{1}{5} = \frac{1}{5} \dots \textcircled{4}$$

④ - ③ から $\frac{4}{5}a_n = \frac{1}{5} + \frac{3}{5^{n+1}}$ ゆえに $a_n = \frac{1}{4}\left(1 + \frac{3}{5^n}\right)$

よって $b_n = \frac{5}{3}a_{n+1} - \frac{2}{3}a_n = \frac{5}{12}\left(1 + \frac{3}{5^{n+1}}\right) - \frac{2}{12}\left(1 + \frac{3}{5^n}\right) = \frac{1}{12}\left(3 - \frac{3}{5^n}\right) = \frac{1}{4}\left(1 - \frac{1}{5^n}\right)$

3 (1) $s = 3^x > 0$

また $f(x) = 3^{3x} - 6 \times 3^{2x} - 33 \times 3^x = (3^x)^3 - 6 \times (3^x)^2 - 33 \times 3^x$

よって $F(s) = s^3 - 6s^2 - 33s$

(2) $F(s) = 0$ とすると $s^3 - 6s^2 - 33s = 0$

よって $s(s^2 - 6s - 33) = 0$

これを解くと $s = 0, 3 \pm \sqrt{42}$

$s > 0$ であるから $s = 3 + \sqrt{42}$

ゆえに, $f(x) = 0$ のとき $3^x = 3 + \sqrt{42}$

したがって $x = \log_3(3 + \sqrt{42})$

(3) $3^x > 0, 3^{-x} > 0$ であるから, 相加平均・相乗平均の大小関係により

$$t = 3^x + 3^{-x} \geq 2\sqrt{3^x \cdot 3^{-x}} = 2$$

また $g(x) = f(x) + f(-x) + 204$

$$= 3^{3x} - 6 \times 3^{2x} - 33 \times 3^x + 3^{-3x} - 6 \times 3^{-2x} - 33 \times 3^{-x} + 204$$

$$= ((3^x)^3 + (3^{-x})^3) - 6((3^x)^2 + (3^{-x})^2) - 33(3^x + 3^{-x}) + 204$$

$$= ((3^x + 3^{-x})^3 - 3 \cdot 3^x \cdot 3^{-x}(3^x + 3^{-x})) - 33(3^x + 3^{-x}) + 204$$

$$= 6(3^x + 3^{-x})^2 - 2 \cdot 3^x \cdot 3^{-x} - 33(3^x + 3^{-x}) + 204$$

よって $G(t) = (t^3 - 3t) - 6(t^2 - 2) - 33t + 204 = t^3 - 6t^2 - 36t + 216$

(4) $G(t) = 0$ とすると $t^3 - 6t^2 - 36t + 216 = 0$

よって $(t+6)(t-6)^2 = 0$

これを解くと $t = \pm 6$

$t \geq 2$ であるから $t = 6$

ゆえに, $g(x) = 0$ のとき $3^x + 3^{-x} = 6$

両辺に 3^x を掛けて整理すると $(3^x)^2 - 6 \cdot 3^x + 1 = 0$

3^x について解くと $3^x = 3 \pm 2\sqrt{2}$

したがって $x = \log_3(3 \pm 2\sqrt{2})$

1 (1) $a_n \leq m$ となる最大の n の値を b_m ($m=1, 2, \dots$) とする。

$$b_m = \sum_{k=1}^m (3k-1) = 3 \cdot \frac{1}{2} m(m+1) - m = \frac{1}{2} m(3m+1)$$

よって $b_2=7, b_3=15, b_4=26$

ゆえに $a_{10}=3, a_{20}=4$

(2) $b_9=126, b_{10}=155$ であるから $127 \leq n \leq 155$

(3) $b_k = \frac{1}{2} k(3k+1)$

(4) $b_m \leq 610$ とすると $(m-20)(3m+61) \leq 0$

$m=20$ のとき $b_m=610$ から $a_{610}=20$

$a_n=20$ となる n の個数は $3 \cdot 20 - 1 = 59$ (個)

a_{610} はそのうちの最後の 59 番目の項である。

(5) 求める和は k が $3k-1$ 個あるから

$$\sum_{k=1}^{20} k(3k-1) = 3 \cdot \frac{1}{6} \cdot 20 \cdot 21 \cdot 41 - \frac{1}{2} \cdot 20 \cdot 21 = 8400$$

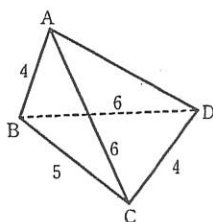
2 (1) $\triangle ABC$ において、余弦定理により

$$\cos \angle ABC = \frac{4^2 + 5^2 - 6^2}{2 \cdot 4 \cdot 5} = \frac{7}{8}$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \sin \angle ABC &= \sqrt{1 - \cos^2 \angle ABC} \\ &= \sqrt{1 - \left(\frac{7}{8}\right)^2} = \frac{3\sqrt{7}}{8} \end{aligned}$$

したがって、 $\triangle ABC$ の面積は

$$\frac{1}{2} BA \cdot BC \sin \angle ABC = \frac{1}{2} \cdot 4 \cdot 5 \cdot \frac{3\sqrt{7}}{8} = \frac{15\sqrt{7}}{4}$$



(2) 平面 BCD 上に $A_0B=4, A_0C=6$ となるように、直線 BC に関して点 D と同じ側に点 A_0 をとる。

点 A_0 から直線 BC に下ろした垂線を A_0H とすると

$$A_0H \perp BC$$

よって、平面 AA_0H は直線 BC に垂直であり、

$\triangle A_0BC \cong \triangle DCB$ より $BC \parallel A_0D$ であるから、

平面 AA_0H は直線 A_0D に垂直である。

したがって、 $A_0D \perp A_0A$ であるから

$$AD = \sqrt{A_0D^2 + A_0A^2} \dots\dots ①$$

$\triangle A_0BC \cong \triangle DCB$ より、四角形 A_0BCD は等脚台形であり、

$$BH = A_0B \cos \angle A_0BC = 4 \cdot \frac{1}{8} = \frac{1}{2}$$

であるから $A_0D = 5 - 2 \cdot \frac{1}{2} = 4 \dots\dots ②$

また、 $A_0H = AH$ であるから、点 A は、H を中心とする半径 A_0H の半円上にある。

$$A_0H = A_0B \sin \angle A_0BC = 4 \cdot \frac{3\sqrt{7}}{8} = \frac{3\sqrt{7}}{2}$$

であるから $0 < A_0A < 3\sqrt{7} \dots\dots ③$

①, ②, ③ より $4 < AD < \sqrt{4^2 + (3\sqrt{7})^2}$

したがって $4 < AD < \sqrt{79}$

(3) 四面体 ABCD の体積が最大となるのは、平面 BCD と平面 ABC が垂直となるときである。

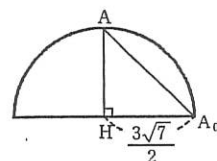
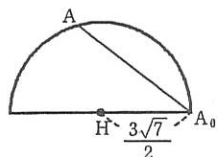
このとき、 $A_0A = \frac{3\sqrt{7}}{2} \cdot \sqrt{2} = \frac{3\sqrt{14}}{2}$ であるから、

①, ② より

$$AD = \sqrt{4^2 + \left(\frac{3\sqrt{14}}{2}\right)^2} = \frac{\sqrt{190}}{2}$$

また、その体積は

$$\frac{1}{3} \triangle ABC \cdot A_0H = \frac{1}{3} \cdot \frac{15\sqrt{7}}{4} \cdot \frac{3\sqrt{7}}{2} = \frac{105}{8}$$



3 (1) 底を 2 に変換すると

$$(\log_2 x)^2 + 2 \cdot \frac{\log_2 x}{\log_2 4} + 2 \log_2 x + \frac{\log_2 y}{\log_2 x} - \log_2 x^{-1} - 2 \cdot \frac{\log_2 2}{\log_2 x} + \frac{\log_2 2}{\log_2 \frac{1}{2}} - 2 = 0$$

$$\text{よって } t^2 + 2 \cdot \frac{t}{2} + 2t + \frac{s}{t} + t - 2 \cdot \frac{1}{t} + \frac{1}{-1} - 2 = 0$$

$$\text{したがって } s = -t^3 - 4t^2 + 3t + 2$$

(2) $y = \frac{1}{65536} = 2^{-16}$ であるから $s = \log_2 2^{-16} = -16$

$$(1) \text{ より } -16 = -t^3 - 4t^2 + 3t + 2$$

$$t^3 + 4t^2 - 3t - 18 = 0$$

$$(t-2)(t+3)^2 = 0$$

$x > 1$ より、 $t = \log_2 x > 0$ であるから $t = 2$

よって $\log_2 x = 2$ したがって $x = 4$

(3) $s = -t^3 - 4t^2 + 3t + 2$ ($t > 0$)

$$\frac{ds}{dt} = -3t^2 - 8t + 3 = -(t+3)(3t-1)$$

s の増減表は右ようになる。

よって、 s は $t = \frac{1}{3}$ のとき最大値 $\frac{68}{27}$ をとる。

このとき

t	0	...	$\frac{1}{3}$...	
$\frac{ds}{dt}$			+	0	-
s			↗	$\frac{68}{27}$	↘

$$\log_2 x = \frac{1}{3} \text{ から } x = 2^{\frac{1}{3}} = \sqrt[3]{2}, \quad \frac{68}{27} = \log_2 y \text{ から } y = 2^{\frac{68}{27}}$$

$s = \log_2 y$ は、 y が増加すると s も増加するから、 s が最大値をとるとき、 y も最大値をとる。

したがって、 y は $x = \sqrt[3]{2}$ のとき最大値 $2^{\frac{68}{27}}$ をとる。

① (1) $f(10) = \left[\frac{10}{3} + 5 \right] = \left[8 + \frac{1}{3} \right] = 78$, $f(100) = \left[\frac{100}{3} + 5 \right] = \left[38 + \frac{1}{3} \right] = 38$

$f(n) = 10$ から $10 \leq \frac{1}{3}n + 5 < 11$

すなわち $5 \leq \frac{1}{3}n < 6$ よって $15 \leq n < 18$

したがって、 $f(n) = 10$ を満たす最小の自然数 n は $n = 15$

(2) $4x^2 - 20x + 9 < 0$ から $(2x-1)(2x-9) < 0$ よって $\frac{1}{2} < x < \frac{9}{2}$

$4[x]^2 - 20[x] + 9 < 0$ から $\frac{1}{2} < [x] < \frac{9}{2}$ よって $[x] = 1, 2, 3, 4$

これを満たす x の値の範囲は $*1 \leq x < 5$

(3) $[x^2 - 2x + 2] = 1$ から $1 \leq x^2 - 2x + 2 < 2$

すなわち $1 \leq x^2 - 2x + 2$ ① かつ $x^2 - 2x + 2 < 2$ ②

① から $(x-1)^2 \geq 0$ よって、解は すべての実数

② から $x(x-2) < 0$ よって、解は $0 < x < 2$

①, ② の解の共通範囲を求めて $*0 < x < 2$

(4) $y = [x^2]$, $y = 2x - 1$ から y を消去して $[x^2] = 2x - 1$ (*)

$x^2 \geq 0$ より $[x^2] \geq 0$ であるから $2x - 1 \geq 0$ よって $x \geq \frac{1}{2}$

[1] $\frac{1}{2} \leq x < 1$ のとき

$\frac{1}{4} \leq x^2 < 1$ であるから $[x^2] = 0$

(*) は $0 = 2x - 1$

よって $x = \frac{1}{2}$ このとき $y = 0$

[2] $1 \leq x < \sqrt{2}$ のとき

$1 \leq x^2 < 2$ であるから $[x^2] = 1$

(*) は $1 = 2x - 1$ よって $x = 1$ このとき $y = 1$

[3] $\sqrt{2} \leq x < \sqrt{3}$ のとき

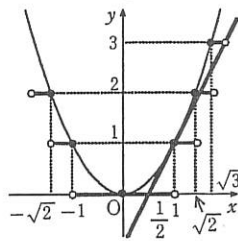
$2 \leq x^2 < 3$ であるから $[x^2] = 2$

(*) は $2 = 2x - 1$ よって $x = \frac{3}{2}$ このとき $y = 2$

[4] $\sqrt{3} \leq x$ のとき 共有点はない。

以上から、共有点は 3 個あり、 x 座標の小さいものから順に

$\left(\frac{1}{2}, 0\right), (1, 1), \left(\frac{3}{2}, 2\right)$



② (1) $3^3 = 27 = 17 \times 1 + 10$ よって $r(3) = 10$

$3^5 = 243 = 17 \times 14 + 5$ よって $r(5) = 5$

3^n を 17 で割った商を $q(n)$ とすると

$$\begin{aligned} 3^{m+n} &= 3^m \times 3^n = 17q(m) + r(m) \{17q(n) + r(n)\} \\ &= 17^2 q(m)q(n) + 17\{q(m)r(n) + r(m)q(n)\} + r(m)r(n) \\ &= 17\{17q(m)q(n) + q(m)r(n) + r(m)q(n)\} + r(m)r(n) \end{aligned}$$

したがって、 $r(m+n)$ は $r(m)r(n)$ を 17 で割った余りに等しい。..... ①

$3^8 = 3^{3+5}$ で $r(3)r(5) = 10 \times 5 = 50 = 17 \times 2 + 16$

よって $r(8) = 16$ 同様に $r(11) = 7$

また、 $r(16) = 1$ であるから、① より

$r(n+16l) = r(n)$ (l は正の整数)

が成り立つ。

$3^{25} = 3^{16+9}$ であるから $r(25) = r(9) = 14$

$3^{2004} = 3^{16 \times 125 + 4}$ であるから $r(2004) = r(4) = 13$

(2) $r(1)$ から $r(16)$ までを書き出すと、次のようになる。

$r(1) = 3, r(2) = 9, r(3) = 10, r(4) = 13,$

$r(5) = 5, r(6) = 15, r(7) = 11, r(8) = 16,$

$r(9) = 14, r(10) = 8, r(11) = 7, r(12) = 4,$

$r(13) = 12, r(14) = 2, r(15) = 6, r(16) = 1$

$r(n+k)$ は $r(n)r(k)$ を 17 で割った余りに等しいから

$r(n+k) = r(n) \iff r(k) = 1$

よって、求める最小の k は 16

(3) 3^0 を 17 で割った余りを $r(0)$ とすると $r(0) = 1$

また $r(17) = 3, r(18) = 9, r(19) = 10, r(20) = 13$

$3^a + 3^b$ が 17 で割り切れるための条件は、 $r(a) + r(b)$ が 17 で割り切れることである。

このような (a, b) [ただし、 $0 \leq b < a \leq 20$] の組は

$(8, 0), (9, 1), (10, 2), (11, 3), (12, 4), (13, 5), (14, 6), (15, 7), (16, 8),$

$(17, 9), (18, 10), (19, 11), (20, 12)$

の 13 組あり、この中で a, b がともに素数である組は

$(19, 11), (13, 5), (11, 3)$

③ (1) $x^2 + y^2 - 16x - 22y + 169 = 0$ ①, $y = mx$ ② とする。

② を ① に代入すると $x^2 + m^2 x^2 - 16x - 22mx + 169 = 0$

整理すると $(m^2 + 1)x^2 - 2(11m + 8)x + 169 = 0$ ③

③ の判別式を D とすると $\frac{D}{4} = (11m + 8)^2 - (m^2 + 1) \cdot 169 = -48m^2 + 176m - 105$

① と ② が異なる 2 点で交わる時、 $D > 0$ であるから $-48m^2 + 176m - 105 > 0$

よって $48m^2 - 176m + 105 < 0$

ゆえに $(4m - 3)(12m - 35) < 0$

したがって $\frac{3}{4} < m < \frac{35}{12}$ ④

(2) ① を変形すると $(x-8)^2 + (y-11)^2 = 4^2$ となるから、円 C は第 1 象限にある。

ゆえに $\alpha > 0, \beta > 0$

このとき $OA \cdot OB = \sqrt{\alpha^2 + m^2 \alpha^2} \sqrt{\beta^2 + m^2 \beta^2} = |\alpha| |\beta| (m^2 + 1) = \alpha \beta (m^2 + 1)$

α, β は ③ の 2 つの解であるから、解と係数の関係により $\alpha \beta = \frac{169}{m^2 + 1}$

したがって $OA \cdot OB = \frac{169}{m^2 + 1} \cdot (m^2 + 1) = 169$ (一定)

(3) 円の中心を $D(10, y)$ とする。

$AD = BD$ であるから $AD^2 = BD^2$

よって $(10 - \alpha)^2 + (y - m\alpha)^2 = (10 - \beta)^2 + (y - m\beta)^2$

ゆえに $(m^2 + 1)(\alpha^2 - \beta^2) - 2my(\alpha - \beta) = 0$

すなわち $(\alpha - \beta)(m^2 + 1)(\alpha + \beta) - 2my - 20 = 0$

$\alpha \neq \beta$ であるから $(m^2 + 1)(\alpha + \beta) - 2my - 20 = 0$ ⑤

③ において、解と係数の関係により $\alpha + \beta = \frac{2(11m + 8)}{m^2 + 1}$

これを ⑤ に代入して $(m^2 + 1) \cdot \frac{2(11m + 8)}{m^2 + 1} - 2my - 20 = 0$

したがって $y = 11 - \frac{2}{m}$

④ のとき $11 - 2 \cdot \frac{4}{3} < 11 - \frac{2}{m} < 11 - 2 \cdot \frac{12}{35}$

すなわち $\frac{25}{3} < 11 - \frac{2}{m} < \frac{361}{35}$

したがって、中心の y 座標がとりうる値の範囲は $\frac{25}{3} < y < \frac{361}{35}$